

私のように美しい娘 (1972)

UNE BELLE FILLE COMME MOI
SUCH A GORGEOUS KID LIKE MEメディア 映画
ジャンル ドラマ コメディ
製作国 フランス
色彩 Color
時間 98分
初公開日 1974/10/15
公開情報 ヘラルド
映倫 G

【解説】

トリュフォーの天才的映画話芸が堪能できる、悪女をめぐる懲りない男たちのおとぎ話。冒頭、書店である社会主義学者の新著を求めた客に、店主が、それは結局発行されなかった、と告げて、何故だろうーとしばし考え込む。その理由が軽妙洒脱に語られるのだが、実際、服役中の彼女を取材したその学者＝スタニスラフのように、映画を観る我々も、慎みのかけらもなく肉体で思考する（それも見事に）主人公カミーユ（素晴らしいラフォン！）の大らかさに思わず引き込まれ、その悪行の数々すら許してしまいそうになる。なにせ、9歳で実父の虐待（と言っても、お尻を蹴飛ばされるくらいのものだが、ここでサイレント喜劇への郷愁が窺えるドタバタ風のギャグがさらり）に耐えかねて、事故と見せかけた殺しをしでかして感化院送りになった筋金入り。そこを脱走してからも、偽りの妊娠で小さなガレージを経営するドラ息子（P・レオタール）をたらしこみ、その母のヘソクリ持ち出して逃げる。そして、怪しげなラウンジ歌手（SEXの際カー・レースのレコードをかける奇人）と出来ちゃうは、事故に遭った夫の弁護をしようという弁護士への支払いはこれまたカラダですませ、拳句、善良な害虫駆除屋の30すぎの童貞男（C・デネ好演！）と出会うと猫をかぶって、作り話の身上話をして、また、彼が惜しげもなく有り金渡すもんだからズに乗って……。この四つ股かける傑女ぶりは拍手もの。デネをたぶらかす“偶然を装う”場面は爆笑間違いない。こんな性悪娘とつき合ううちに、色々と理屈をつけるが結局は惚れてしまうスタニスラフ。が、その原稿をタイプする秘書は彼女を好かず、秘かに想いを寄せる彼と言い争う。なのに、彼女の無罪の証明に活躍することになり……。彼女が何をしないで、結局、何をしたかーは観てのお楽しみ。しなかったことの種明かしに使われるトリュフォーならではのトリックには嬉しくて頬が緩む。

【クレジット】

監督	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
製作	マルセル・ベルベール	Marcel Berbert
原作	ヘンリー・ファレル	Henry Farrell
脚本	ジャン＝ルー・ダバディ	Jean-Loup Dabadie
	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
撮影	ピエール＝ウィリアム・グレン	Pierre-William Glenn
音楽	ジョルジュ・ドルリュエ	Georges Delerue
出演	ベルナデット・ラフォン	Bernadette Lafont
	アンドレ・デュソリエ	Andre Dussollier
	シャルル・デネ	Charles Denner
	ギイ・マルシャン	Guy Marchand
	フィリップ・レオタール	Philippe Leotard

